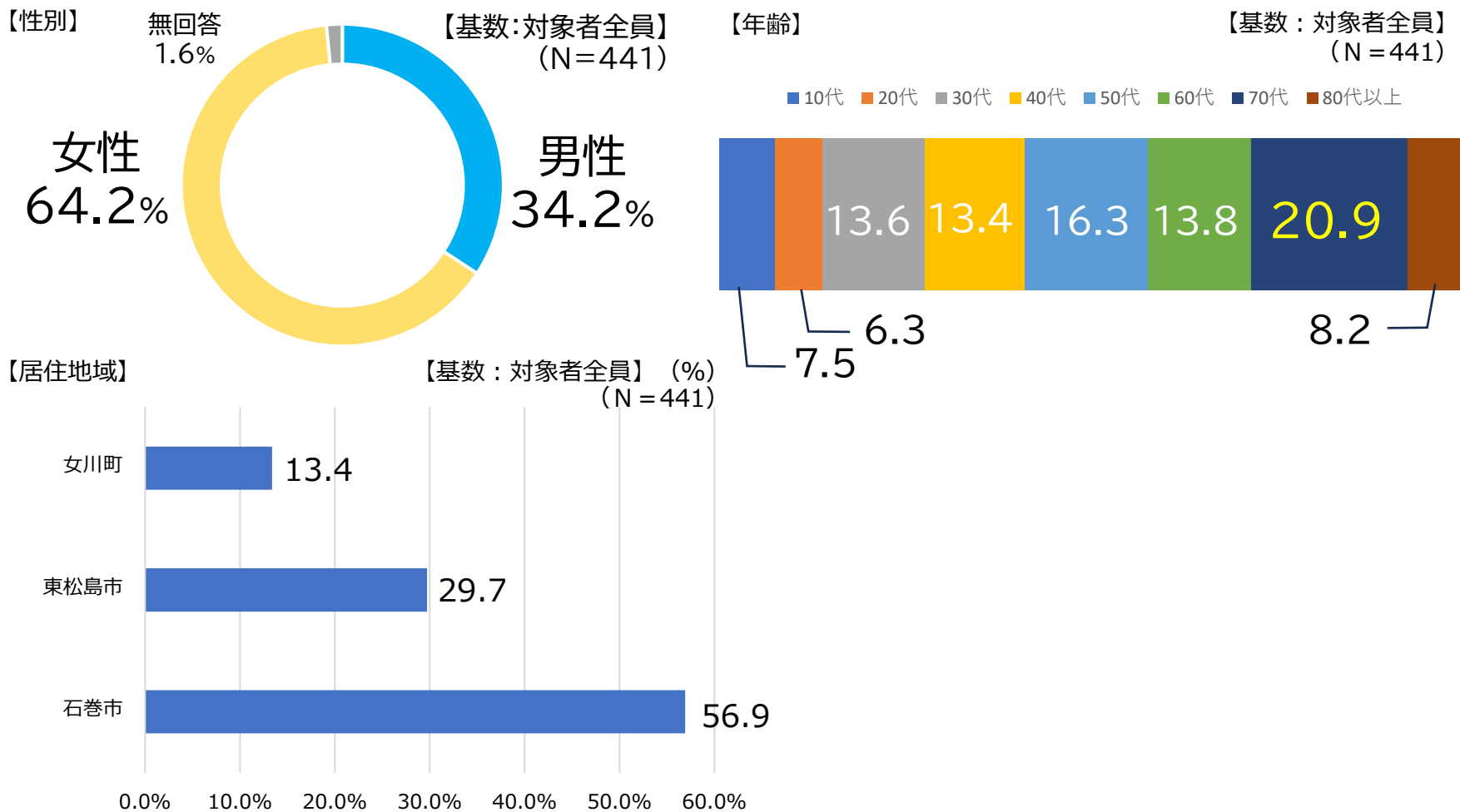


調査結果詳細

1. 住民属性

(1) アンケート回答者属性

- 今回の調査は女性64.2%、男性34.2%となっており、年代は70代ついで50代がボリュームゾーンとなった。
- 居住地は石巻市が56.9%34.7と最も多く、次いで東松島市が29.7%となった。



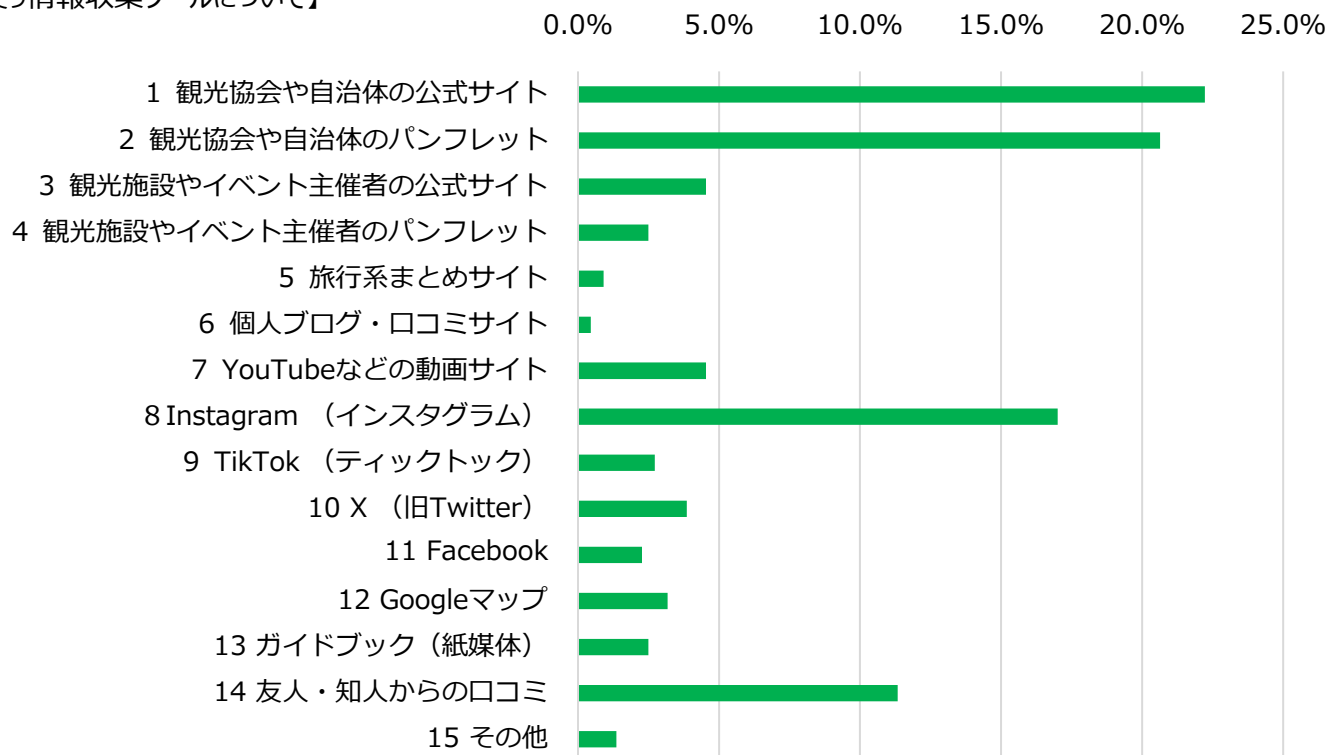
(2) 情報収集ツールと情報ニーズの傾向分析

- 他地域のイベントや観光施設の情報収集においては、信頼性の高い『観光協会や自治体の公式サイト（22.2%）』を筆頭に、『同パンフレット（20.6%）』の公的2媒体が全体の4割以上（42.8%）を占めて上位を独占しており、未知の場所を調べるにあたり、ユーザーがまず確実性の高い公的情報を最優先の拠り所とする「信頼性重視」の動向が鮮明になった。
- SNSや動画プラットフォームにおける情報収集は、『Instagram（17.0%）』が独走する一方で、『YouTube（4.5%）』や『X（3.9%）』『TikTok（2.7%）』などは最初の窓口として選ばれにくいという、媒体間での格差が顕著に見える結果となった。
- パンフレットやガイドブックといった紙媒体の利用率が低迷する一方で、友人・知人からの口コミはガイドブックを上回る11.3%に達しており、デジタル化が進む中でもリアルな体験談に対するニーズが判明した。

問7. 日常、他地域のイベントや観光施設（テーマパークなど）の情報を得るために普段どんなツールを一番使っていますか？（○は1つだけ）

【普段一番使う情報収集ツールについて】

【N = 441】



(3) 情報収集ツールと情報ニーズの傾向分析

- 10代では『TikTok』が最大の情報源として突出する一方、20代から40代にかけては『Instagram』が圧倒的な主軸ツールとなっており、同じ若年・ミドル層であっても、年齢によって情報を得るための「窓口」が明確に分断されている結果となった。
- 50代・60代では『自治体の公式サイト』の利用が大きなシェアを占めるものの、70代・80代以上になると『同パンフレット』が全媒体の中で圧倒的トップへと躍り出ており、シニア層全体で公的情報への信頼性をベースにしつつも、年齢層が高まるにつれて閲覧ツールがデジタルから紙媒体へと緩やかにシフトしていくメディア接触行動が見える結果となった。

問7. 日常、他地域のイベントや観光施設（テーマパークなど）の情報を得るために普段どんなツールを一番使っていますか？（○は1つだけ）

【普段一番使う情報収集ツールについて】

【N=441】

